8.1BAS/8.2BAS

In-Ceiling Subwoofer

取扱説明書

■梱包物の内容

■部位の名称

※本書に掲載されている図、イラストは8.1BASです。

■お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
■この説明書をよくお読みのうえ、工事の専門技術者が施工を行なってください。この説明書は、必ずお客様にお渡しください。
■施工の際には本製品のサイズおよび重量を考慮し、必要に応じて取り付け箇所への補強処理などを行なってください。

安全にご使用いただくために

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いいただきますようお願いします。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■改造しない

分解禁止

●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因になります。

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

■水の入った容器を置かない

●本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■中に物を入れない

●本機の内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐにアンプの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■締めつけについて

●ネジなどによる締めつけは確実に行ってください。緩んだまま使用しますと、事故の原因となります。

■天井面の切断について

●天井面を切断する場合は、切断面のカエリ、切りくずなどはきれいに取り除いてください。ケガ・火災・感電の原因となります。

■取り付け場所について

●本製品は一般屋内専用です。湿気の多い場所、振動のある場所、腐食性ガスの発生する場所等には、使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
●スピーカーを取り付ける壁面や天井面の強度によっては、補強が必要な場合があります。

■取り付け後のご使用にあたって

●取り付け中、または取り付け完了後に、本体にぶら下がったり、より掛かったり、むやみに力を加えたりしないでください。落下・破損の原因となります。

⚠注意

■設置上の注意

●移動させる場合は、アンプの電源スイッチを切り、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因になります。

■スピーカーコードは安全な場所へ

●スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

■次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

■使用上の注意

●電源を入れる前にはアンプの音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

●長時間音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

■取り付け場所について

●本製品を天井面に取り付ける際は、充分な強度のある平らな面を選んでください。

●熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。近くで使用しますと、火災や事故の原因となることがあります。

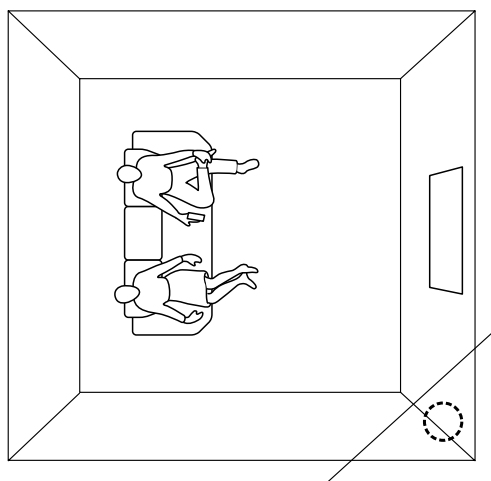
音のエチケット／楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

スピーカーの配置

本機が再生する超低域は波長が長いため、人間の耳ではあまり方向性を感じず、どこに取り付けていただいても問題はありません。しかし、再生される低音の質や量は、取り付ける場所と視聴する位置に大きく影響されます。まずは天井裏の電線、配管、あるいは他の固定設備などの場所を考慮しながら、配置場所を決めてください。

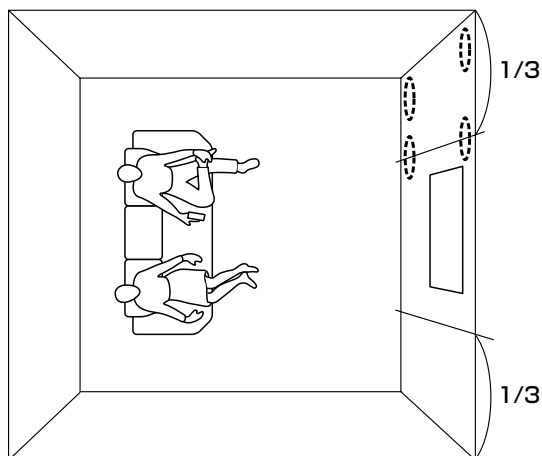
●天井への配置

天井への取り付けの場合、一般的に中央付近よりも壁面に近づく方が効果的とされます。さらに、天井と壁の3面が交差するコーナー付近であれば、より高い効果が期待できます。

図1

※画面の左右どちらでも、一般的には同じ効果が期待できます。

●壁面への配置

壁面への場合も天井と同様、一般的に部屋の隅やコーナー付近、もしくはフロント側の壁面を3等分した線上に取り付けるのが効果的とされます。

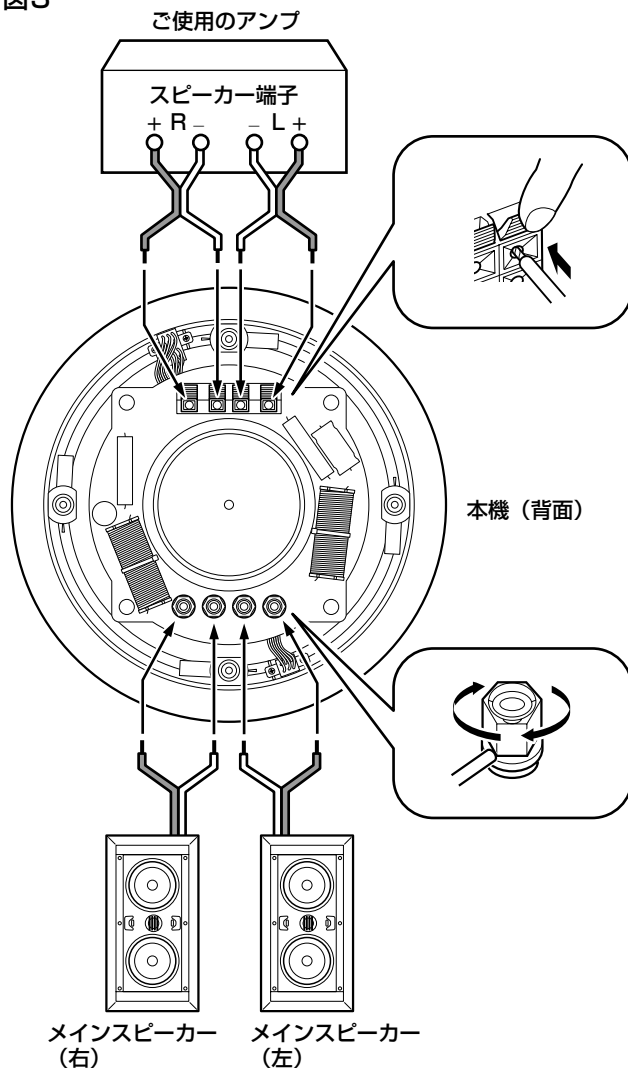
図2

※画面の左右どちらでも、一般的には同じ効果が期待できます。

接続について

本機はローパスフィルターを内蔵していますので、他のクロスオーバー回路を用意しなくても、フルレンジの信号を直接入力することができます。一般的なアンプへの接続は、下記のようになります。

●アンプのスピーカー出力が1系統の場合

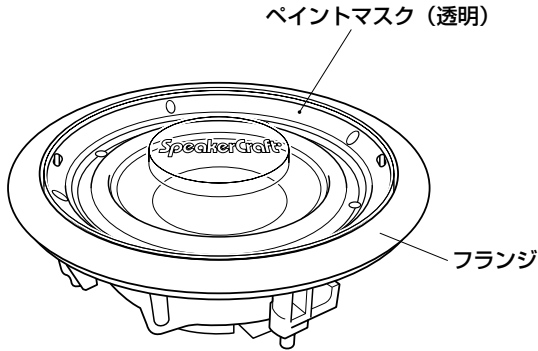
本機の入力端子を、アンプのスピーカー出力端子に接続します。
メインスピーカーは、8.1BASの出力端子に接続します。
なお、メインスピーカーは、アンプに表示されたインピーダンスの範囲内のものをご使用ください。

図3

※AVセンターと接続する場合は、本機とフロント左/右スピーカーを接続します。AVセンターからの信号がフルレンジで入力されるように、スピーカーセットアップでフロントスピーカーをラージに設定してください。サブウーファーはオフに設定してください。

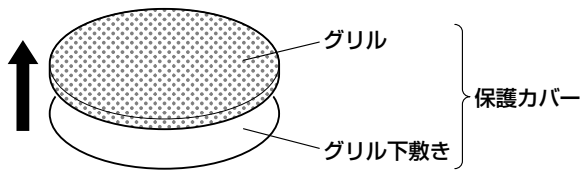
危険
回路の故障を防ぐためスピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはLとRなどを絶対に接触させないでください。

スピーカーの塗装

1. スピーカーに塗料を塗りたい場合は設置前等、スピーカーを壁から外した状態で作業されることをおすすめします。フランジに塗装する時は、ペイントマスクが付いた状態で行なってください。

図4

2. パンチングメタル仕様のグリルは、そのまま下地として塗料を塗ることも可能です。その場合はグリルの穴を塞いでしまわないように細心の注意を払ってください。

3. まず、グリルからグリル下敷きを外してください。グリルに塗料を塗った後、塗料が乾いたらグリル下敷きをもとに戻します。

図5

4. グリル下敷きにも塗装する必要がある場合には、グリルの塗装と同じ手順で行ってください。

5. 各部位の塗料が完全に乾いてから、スピーカーを壁に装着してください。

★塗料は原液1、塗料薄め液5の割合で作った塗料を軽くスプレー塗装することをお勧めします。

取り付け準備

実際にスピーカーを設置する前に、あらかじめスピーカーの設置位置までケーブルを配線しておいてください。

取り付けの際は、以下の指示に慎重に従ってください。

1. 配置位置の決定

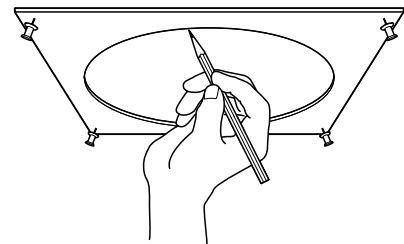
まずスピーカーの設置に最も適した場所を選びます。この場所は、電線、HVACダクト、配管などの障害物がないところを選んでください。固定設備の位置を把握したり、また可能なら実際に屋根裏のスペースを覗いて障害物の位置を確かめることで、設置場所選びが確実になるでしょう。

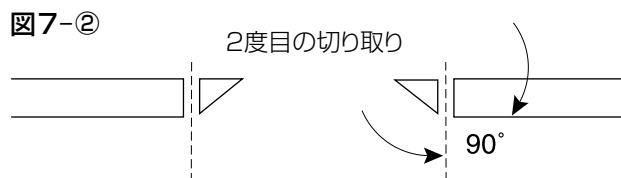
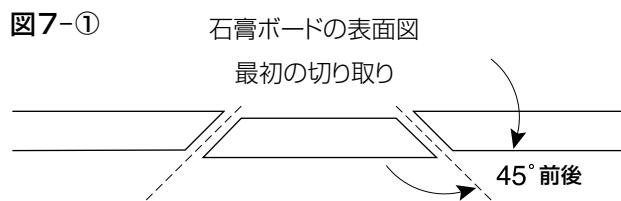
2. 障害物の特定

希望するスピーカーの設置場所に最も近い梁の位置を確認してください。梁の位置を見つけるには、正確な間柱検知器をお使いになることをおすすめします。スピーカーを部屋の何か他のものと並べて配置したい場合は、バッフルフランジ面の外端が、天井面の取り付け穴の外側に位置することを念頭においてください。

3. テンプレートの型取り

次に、取り付け穴の型を取ります。取り付け穴を型取るためのテンプレートが箱の中に入っています。取り付けたい天井の位置にテンプレートを置いて、輪郭を鉛筆で型取りしてください。

図6

4. 取り付け穴の切り取り

取り付け予定位置の内側の障害物の有無が分からない場合は、まず鉛筆で型取ったスペースの中央にドリル等で小さな穴を開けます。次に石膏ボード用のノコギリを使って、穴の内側の方向に45度前後の角度で切り込みを入れます。（図7-①参照）
この角度で穴を開けると、もし場所を変更する時に、切り出したカケラを使うことによって石膏ボードの修復がたいへん楽になります。
（45度前後で切り込みを入れておくことで、石膏ボード本体との接着面積が大きくなります）
取り付け予定位置に障害物がないことを確認したら、今度は石膏ボードの表面に対して90度の角度で最終的な穴を開けていきます。（図7-②参照）

5. 防音材の施工

次に防音材を施します。天井の取り付け場所がまだ防音されていない場合は、適量の防音材でスピーカーの後ろ側を軽く覆ってください。
使用する防音材がホイルや紙でカバーしてある場合は、それらをスピーカーから離しておいてください。

スピーカーの取り付け

独自の取り付けレバーにより、以下の手順を行うだけですばやい取り付けが可能になります。

1. まず、スピーカーについているペイントマスクを取り外してください。

2. 次にスピーカーケーブルを取り付けます（＋と＋、－と－になるように、アンプに正しい極を合わせてください）。必ず、アンプの左チャンネルは左のスピーカーと接続し、右チャンネルは右のスピーカーと接続するようにしてください。

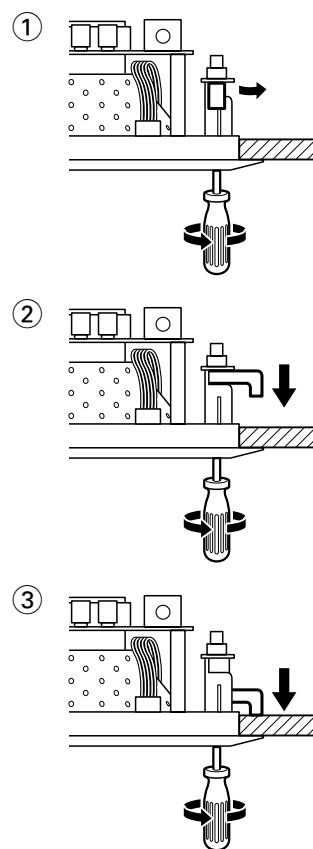
3. スピーカーを天井の穴の中に入れます。取り付けレバーを内側に曲げてじゃまにならないようにしてください。

4. フランジが壁にぴったりと合うように、バッフル前面の4つのネジを順番に締めます。ネジを締めていくにつれて、取り付けレバーが自動的に外側の位置にはじき出され、レバーとフランジの間の石膏ボードを固定していきます。（図8参照）

5. 四隅のネジをしっかりと締めます。

   注意：ネジをきつく締めすぎるとバッフルをゆがませたり、壁にひびをいかせたり、フランジを変形させるおそれがあります。

6. 保護カバーをスピーカーバッフルの中にしっかりと押し込んでください。

図8

特殊な耐火壁への設置

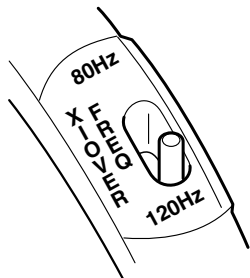
本機を耐火された壁にあるいは新築の壁に設置する場合は、音響面からの配慮により、本体の取り付け前に別売エンクロージャー（ SE1410-AIM）をご使用ください。このエンクロージャーはスピーカーにスピーカーケーブルを直接接続するための標準電気クランプ型コネクターを備えていますので、ごく簡単に施工いただけます。

スピーカーの調整

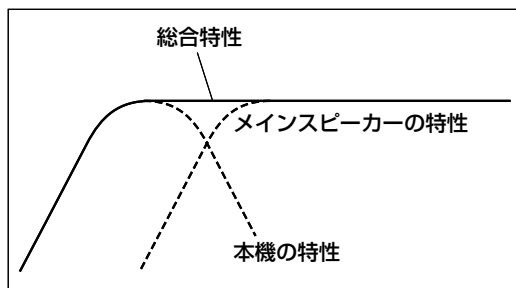
効果的な低域再生のため、組み合わせるスピーカーの特性や部屋の状況に応じた、スピーカーの調整を行ってください。

●クロスオーバー周波数の調整

クロスオーバー周波数切り換えスイッチ（X-OVER FREQ）は、再生周波数帯域を2段階に調整することができます。

図9

1.組み合わせるスピーカーの最低再生周波数を、そのスピーカーの取扱説明書などで調べてください。

2.メインとなるスピーカーの最低再生周波数より、やや高めに調整するのが一般的です。組み合わせるスピーカーと音のつながりが自然になるよう設定してください。

図10

※スピーカークラフト製品と組み合わせる場合は、下記を参考の上、部屋の状況などに応じた調整を行ってください。

7、8inchモデル（ウーファー口径が17cm以上の機種）

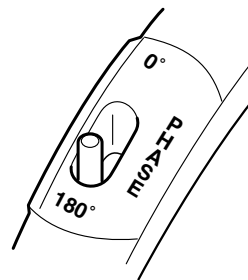
AIM8 FIVE/THREE
AIM7 FIVE/THREE
AIM7 MT THREE LEFT/RIGHT
…… 80Hz

6.5inchモデル等（ウーファー口径が17cm未満の機種）

CRS THREE、6.5DT、
STARLET-4/6/9、
AIM LCR-3、MT THREE
AIM5 THREE
…………… 120Hz

●位相の調整

位相切り換えスイッチ（PHASE）は、組み合わせるスピーカーに対して正相（0°）につなぐか、逆相（180°）につなぐかを切り換えることができます。

図11

1.質の良い低音が入った映画や音楽のソフトを用意してください。

2.ソースの分かりやすい部分をくりかえし再生しながら、位相切り換えスイッチ（PHASE）を切り換えます。

3.正相（0°）と逆相（180°）の両方を視聴してみて、もっとも自然な再生音になる方を選んでください。

※音の変化にまったく気がつかない場合は、どちらのポジションを選んでいただいても問題ありません。

■ 8.1BAS/8.2BAS 仕様

	8.1BAS	8.2BAS
使用スピーカー	20cmPPマイカコーン型ウーファー	20cmIMGコーンウーファー
再生インピーダンス	8Ω	
入力感度	89dB	90dB
周波数特性	33〜80Hz、33〜120Hz	30〜80Hz、30〜120Hz
許容入力	5〜100W	
直径×奥行き	28.7cm×9.8cm	28.7cm×11.2cm
カットアウト寸法	直径 25.0cm	
質　　量	2.3kg	3.0kg

※製品の特徴や仕様が予告なく変更されることがあります。

SpeakerCraft社製品ご相談・修理窓口のご案内

オンキヨー株式会社　コールセンター

☎ 0570-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土、日、祝日、弊社の定める休業日を除きます）

外形寸法：直径 28.7×高さ 9.8㎝
カットアウト寸法：直径 25.0㎝
重量： 2.3kg

外形寸法：直径 28.7×高さ 11.2cm
カットアウト寸法：直径 25.0cm
重量： 3.0kg